

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.12 No.11 November 2011

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
どろ海・・・？
／深谷忠一 1
- ・ 天理教教理史断章 (71)
その他の文書^⑭
／安井幹夫 2
- ・ 天理教海外伝道の資料 (21)
満州伝道関連史料^⑤
／深川治道 5
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (32)
ハワイ人教会
／井上昭洋 6
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (35)
現代における霊（精神）的共同体の可能性
／金子 昭 8
- ・ 現代ジェンダー論展望 (17)
今再びエコフェミニズムに学ぶ
／金子珠理 9
- ・ 天理スポーツ (18)
天理スポーツ シンポジウム^⑧
／難波真理 10
- ・ アメリカ通信 (8)
バークレー留学体験記：レベル2の自分
／深谷耕治 11
- ・ 平成 23 年度公開教学講座
「現代社会と天理教」(2)
第 6 講：世界の難渋に心を寄せて
／野口 茂 12
- ・ English Summary 13
- ・ おやさと研究所ニュース 14
第 22 回雅楽部海外公演／第 241 回研究報告会／
日台国際研究会議「東アジアの死生学へ」に参加
／日本社会福祉学会第 59 回秋季大会で発表／日本
爬虫両棲類学会第 50 回大会で発表／諸井慶徳
先生 50 年祭記念公開教学シンポジウム「天理教
教義学を語る」案内

巻頭言

どろ海・・・？

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

『天理教教典』第三章「元の理」に、「どろ海中のどちよを皆食べて、その心根を味い、これを人間のたねとされた。」と記されていますが、この「どろ海」をどう解釈するかにしては、種々の論説があります。その主なものを挙げますと、

- ①世界が親神の身体であるという上からの親神の胎内
 - ②神の下半身—泥海も神の身体の一部とすれば、神が上方から見た神自身の下方
 - ③この世にコスモスという秩序ができる前の混沌状態
 - ④第一質量—ものを形成する能力はないが、機能を内在させているもの
 - ⑤天と地として離れていた水と土が、同じ場所で出会ったもの—生産は交わりにおいて起きることの象徴
 - ⑥生命科学上のスープの海—有機物や無機物が豊富に入り混じった状態の海
 - ⑦地質学上のカンブリア紀—有性生殖生物が出現した環境
 - ⑧生殖細胞の存在する環境—精子と精液、卵子と透明帯
 - ⑨初期胎児が浮遊する環境—母体の胎内の羊水
 - ⑩地球の粘土層—彗星に乗って運ばれてきた生命の元になる最初のタンパク質が軟着陸した土壌
- 等の諸説があります。

これからもまだまだ「どろ海」が意味するところの理解が深化していくことが期待されるのですが、最近東北大学と物質・材料研究機構が共同で発表した実験結果も、その論議の進展に寄与するところがあるのではないかと思います。

筆者の化学的理解力の不足を補うために先ず、発表されたままのものを以下に引用します。「東北大学大学院理学研究科と独立行政法人物質・材料研究機構は、高温高压条件でのアミノ酸の重合実験をおこない、タンパク質の元となるペプチドが単純なアミノ酸（グリシン、アラニン）から作り出されることを明らかにしました。

これまで、生命の起源を探る有機物合成実

験によって、アミノ酸など単純な有機物の生成機構は少しずつ解明されてきましたが、それが原始地球の環境の中でさらに進化する過程はほとんど未解明でした。今回の実験では、より複雑な高分子の生成に成功し、より高压で、より高濃度のアンモニアが存在することが、アミノ酸やペプチドの安定性に重要であることを明らかにしました。これは、タンパク質の元となる物質の生成が、原始地球の海底地下で起きていたことを示唆しています。つまり初期地球に海が出現した後、海底地下に単純な有機物が濃集し、海底堆積物が圧密・脱水される過程でより複雑な有機物へと“進化”したとする説を支持しています。」

(<http://www.nims.go.jp/news/press/2011/09/p201109270.html>)
研究グループは、アミノ酸の粉末をカプセルに入れて、1万～5万5千気圧の圧力をかけて、180～400度の高温状態を最長24時間維持したというのですが、この実験での条件を地球に当てはめると、深さ6～45kmの地中の状態に相当するのだそうです。

従来、生命科学の世界では、生命の起源は海中にあると考えられていたのですが、生命体を構成するタンパク質のもとになる複雑な有機物の「ペプチド」は、海中では作られにくいということが判明しました。つまり、生命の起源に結びつく「化学進化」は海底地下で起きたと考えるべきだということになったのです。

“ご神言は、科学的な事実として認識されるや否やに関わらず真理である”というのが神学の立場ですから、「どろ海」に生命の元が存在したことを科学的に証明する必要は本来的にはありません。また、生命の起源の話と人間の創造が主題になっている「元の理」の話とでは進化のステージが違うとも言えますから、「海底地下＝どろ海」と直裁的に結びつけて考えられるものではないかもしれません。しかるに、ご神言の悟りをいろいろな方向から考えることは大事なことから、今回の実験結果をきっかけに、さらにどのようなことが分かってくるのかにも注目したいと思う次第です。